

フォーラムニュース Vol.14 2020 5/3

発行：フォーラム・子どもたちの未来のために実行委員会

<http://www.f-kodomotachinomirai.com/>

文責／大竹永介

★★今、イタリアはどうなっているのか★★

コロナウィルスとの戦い ボローニャから 鳥丸由美

新型コロナウイルスの感染拡大で、今年のボローニャブックフェアも中止になってしまいました。年に一度の子どもの本の一大イベントもウィルスの猛威には勝てなかったようです。今、そのイタリアは、またボローニャはどうなっているのか？ 長く講談社ブースでブックフェアの通訳などをされている美術家の鳥丸由美さん（写真下・ボローニャ在住）からのお便りをご紹介します。



3月初旬から始まった、イタリア政府のコロナ対策のロックダウンも今週で8週目。ロックダウン解除目前の4月29日、2か月ぶりにボローニャの中心街にある拙宅から徒歩10分ほどのマッジョレ広場に出かけてみた。人通りは少ないものの、商店街はそこそこにぎわっている。ボローニャで有名な児童書専門のストッパーニ書店に入店してみる。ちょうど2人の幼い息子連れのお父さんがレジのところで10冊ぐらいの絵本を購入しているところだった。微笑ましい光景である。

書店の責任者のシルヴァーナ・ソーラさんと少しお話をさせていただいた。ストッパーニ書店は、毎年ボローニャ児童書ブックフェアとしっかりコラボしてサポートしている要の書店だ。今年は4月初めの会期が5月に延期になったものの、コロナウィルスの影響で結局中止に追い込まれた。

今回ソーラさんから嬉しいニュースを聞くことができた。児童書ブックフェア2020のサイトで、本来開催される予定だった、絵本原画展や、特別展「本について考える」等がオンラインで見ることができるというのだ。特に開催予定だった5月4日から7日までは、魅力的なプログラムが組まれているそうで、いろんなテーマにゲストや参加者を招いてのズーム・コンフェレンスが、開催される予定だという。もちろん絵本原画展などは、7日以降も閲覧できるということだ。

www.bolognachildrenbookfair.com

3月初旬から1か月以上閉店していたストッパーニ書店だが、とにかく前向きに頑張っているという。お客さんは、流石にコロナの影響で半減。ただ、時々子供も一緒に書店に来るのを見ると本当にホッとするという。店内は、魅力的な世界中の児童書で埋め尽くされていた。(写真左)



さて、8週目に入ったイタリアのロックダウン

ン。漸くピークは越えて、集中治療の必要な重篤者数、そして感染者数は減少傾向に、逆に治癒した患者数は増えて、確実に光はみえてきている。ただ、この2か月ほどの間に失われた尊い命はなんと2万7千人以上。その中には150人以上の医療従事者（医師や看護師）も含まれている。今も毎日200～300人の方が亡くなってい

る。当初からレッドゾーンだったイタリア北部のロンバルディア州とピエモンテ州はなかなか感染者数が減少しないし、死者数も全体の半数以上を占めているのが現状だ。

5月3日まで続くロックダウンだが、とにかく厳しい移動制限を強いられている。自宅の周辺200メートル付近での必要最低限の外出(食料品の買い出し、薬局、病院等)以外は散歩も含め、一切禁止された。外出時は自主申告書(住所氏名、外出目的、目的地の住所、感染者ではないとする誓約、サイン必須)を携帯することが義務付けられている。これに違反すると、400 - 3000ユーロの罰金または禁錮刑となる。

この所定用紙を政府はなんと計4回も加筆修正し更新した。もちろん隣町への移動も不可、家族親戚を招いてのディナーやランチも不可、町中の公園はすべて閉鎖され、開いているのはスーパー、食料品や生活用品の店(いずれも厳しい入場制限があり、1メートル以上の感覚を開けての長蛇の列(写真参照)、小さな食料品の店だと、一度にお店に入れる人数は1, 2人に限られる)、薬局、病院、ガソリンスタンド、銀行(現在は週3日のみの営業、しかも短縮時間で予約制)、郵便局ぐらい。先々週から、クリーニング屋、書店と文房具屋に加えて、子供用品の店がオープンした。学校は、秋まですべて閉鎖。もちろん保育所も、幼稚園もだ。テレワークをしながら、小さい子供をずっと家の中で面倒をみて相手をする保護者は本当に大変なことだと思う。また、隣町への移動も禁止されているので、家族が離れている場合、自分の両親に会いに行くこともできないのである。もちろん、教会のミサやお葬式も禁止されている。

小学校、中学、高校、大学などでは、毎朝オンライン授業が行われているので、高校や大学の生徒などは結構忙しく宿題に追われているようだ。オンライン授業のシステムは、割とスムーズに定着したようだ。中学や高校の卒業試験は、全国一斉テストは行えないので、オンラインによる口頭試問を主軸に判定していくようだ。



それにしても欧米諸国が行っているコロナ対策(主に政府主導のロックダウン)と比べると、日本のゆるゆるのコロナ対策には、正直かなり不安な気持ちに襲われるし、オンラインの新聞に掲載されている、「3密」など全く守られていない信じがたい人で埋まった商店街の画像などを見ると唾然とするばかりだ。それでも、日本国内のコロナ感染者数もそうだが、死者数が異常に少ないのがとても不思議だ。BCG接種の効果があるのでは、なんてうわさもいろんなところから聞かすが、実のところはどうなのだろう。

自分自身のことと言うと、確かに普段考えなかったことを再考したり、自分を見つめ直す良い機会にはなっている。日本の教育系ユーチューブも仕事しながら見始め、落語や講談もじっくり聴いている。テレビで映画もかなり観た。毎日18時からユーチューブで配信されるイタリア政府の国民保護局のコロナ感染についての細かい報告と記者会見(今は週2回のみ)や日々伝えられるニュースもしっかりチェックしている。

この見えない敵のコロナウイルスとの戦いで世界は確実に変わっていくのだと感じる。そして、鋭い感覚と優れた才能を持ち、エネルギーのあふれる若い人たちから学ぶことが沢山あると実感する日々である。

私自身は、自分なりにプログラムを立て、習慣化したリズムのある規則正しい生活を維持しようと努力している。運動量と睡眠時間を増やし、スローフードの食事で免疫力を高めることをこころがけて。外出は4日に1度ほどで、ゴミ出しと食料品の調達に出るのみ。無論マスクと薄手のビニール手袋は着用。

さあ、5月4日からはいよいよコロナ対策の第2段階(フェーズ2)に入ることが決定。先日、コンテ首相が正式にテレビ会見を開いて、国民に向けてかなり具体的にその内容を話していた。これからは、コロナウイルスとの共生を目指していく考えだ。ほぼすべての会社や工場は正常通りに始めることになるが、検温、ソーシャルディスタンス、マスク着用の義務など、厳しいコントロールがされることになる。同じ州の中での移動は許可され、散歩もソーシャルディスタンスとマスクの着用で許されることになる。公共の美術館や図書館は18日からオープン、そしてレストランやバー(4日からはデリバリーのみ可)、美容院がオープンされるのは6月1日からの予定。

具体的な解決策、つまりワクチン開発や有効な薬などが定まらない限り、こうやって段階的に対策を施しながら、コロナウイルスとの共生をうまく行っていくほかないのだ。

今までイタリア国民が培ってきた、スキンシップを大切にし、カフェテリアで日ごな一日おしゃべりをし、サッカーの試合に熱狂してきた国民性の修正を余儀なくされるのだ。イタリア中の文化遺産に世界中の人々が魅了される、言わずと知れた観光大国イタリア。これからは、世界中の人々のかかわり方や生き方に変化が現れるのではないかと思う。この見えない敵との厳しい戦いを「きつとうまくいく。きつとやれる。」と信じて今、イタリアは国民一丸となって、強い意志のもと、この愛すべき国を立て直そうとしているのだ。VIVA ITALIA!

(写真と文・烏丸由美(からすまる・ゆみ) 美術家。大阪生まれ。90年代から活動拠点をイタリアに移し、外から現代の日本を見つめている。「フェーシング・ヒストリーズ(歴史と向き合う)」は、近年ライフワークとして掲げるテーマ。ヨーロッパをはじめ、アメリカ、日本で展覧会多数。www.karasumaru.com また、ポローニャの日本人家族会「まねきねこ会」の中心メンバーとして定期的にポローニャ中央図書館内の児童図書館(サラボルサ・ラガッツィ)で日本語の絵本の読み聞かせのボランティア活動を行っている。www.manekobo.exblog.jp)

【特別企画・後編】

子どもの本の売り場はどうなっている？

～丸善ジュンク堂書店の兼森さんにきいてみました～

前号でご好評を頂いたジュンク堂兼森さんへのインタビューのつづきです。お読みになられた感想やご質問などをお待ちしています。

Q 膨大な出版点数ですが、どうやって情報を集め、選択されていますか？

【K】 幸い大型書店ですので、出版されるほとんどのものが、新刊として入ってきます。実際にみて判断ができるのはありがたいです。まずは、児童書売り場に置か



れるべき商品なのか、ということが一つの基準です。絵本に関しては、新刊入荷時にすべて目を通すようにしています。読み物はすべて読むのは難しいので、ゲラをいただいたものや、自分の気になったものを中心に読みます。ノンフィクション系の物は、子どもにきちんとした事実が伝えられているか、また思想が一方向的になっていないかなどに注意を払っています。数人いる児童書担当者で必ず意見を出し合い、個人的な感情などで置く置

かないを決めないようにしています。意見がまとまらない時は、多店舗の経験豊かなスタッフに、きいてみることもあります。

Q 私のおススメする子どもの本を1冊、といわれたら？

【K】 森山京先生の『大きくてもちっちゃいかばのこカバオ』（風濤社）です。偕成社版で9歳の時に会ってから、森山先生の言葉が私の糧です。一言一句、空で言えるし、今でも繰り返し読みます。まるで毛穴から入ってくるような、先生の「感じる言葉」で今の私が作られていると思っています。

Q 書店の立場から作り手（作家、画家）や編集者、版元に何か注文はありますか？

【K】 売ってるものを作るのではなく、売りたいものを作る。私たちも、売りたい本を売る。読者に本を届けたいという想いは同じ。手を携えてやっていけたらいいと思います。

Q 私たちのフォーラムの活動について感想とか要望とかありましたら・・・。

【K】 様々な立場の人が「子どもの本」を通して、子どもたちの未来やこれからの社会の在り方を考えていける場があるのは、大事なことだと思います。すべての子どもたちに平等に輝かしい未来がある世界になりますように！

Q 最後に書店の立場からこれだけはいつおきたいということがありましたら。

【K】 買わなくてもいいので、本屋に来て遊びにきてほしいです。書店は書店員が作るものではありません。来てくださるお客様によって、どんどん進化していくのです。作家さん、出版社さん、読者のみなさんと一緒に、本で繋がれる場所を一緒に作っていきたいです。●ありがとうございました！

（なお、お店は10日まで休業。以降は土日祝日以外は10時～18時の営業です）

兼森理恵（かねもり・りえ）書店員。1976年東京都生まれ。1999年ジュンク堂書店入社。池袋本店、新宿店を経て、現在、丸善・丸の内本店勤務。児童書担当。書店業の傍ら、絵本レーベル「らいおん books」にも携わる。

●フォーラムニュースの14号をお届けします。ポローニャからのレポート、いかがでしたでしょうか？ 感想などおきかせいただければ幸いです●新型コロナウイルスの感染拡大はいっこうに収まる気配がなく、緊急事態宣言も延長とか。十分な休業補償もなく、どうなれば宣言が解除されるのかの方向性さえ見えてきません●そんな時に、突如突如浮上してきた「9月入学」論。私は基本的には「9月入学」の方向性をよしとするものですが、しかし、何故いまなのか、という違和感は拭えません。突然の休校措置以来、現場は混乱し疲弊しきつているとききます●PCR検査の拡大も思うようにならない時に、まずやるべきことは感染の拡大防止と医療の崩壊を防ぐことです。「9月入学」論が政権批判の目くらましにならないことを祈るばかりです●配信停止のご希望は f.kodomo.mirai@gmail.com まで。（大竹）